

Gunosy

2020年5月期 第3四半期決算説明資料



株式会社 Gunosy

東証一部（証券コード：6047）

2020年4月14日

INDEX

1	Financial Results for FY2020 Q3 2020年5月期 第3四半期 決算の概要	P 3
2	FY2020 Outlook 2020年5月期 業績予想	P 9
3	Policy for FY2021 2021年5月期の方針について	P 14
4	Business Overview by Division 各事業の概況	P 21
5	APPENDIX 参考資料：（株）Gunosyの概要	P 29



1

Financial Results for FY2020 Q3

2020年5月期 第3四半期 決算の概要

第3四半期連結業績のサマリー

売上高：37.0億円 (YoY 101.8%) **営業利益：3.4億円** (YoY 103.5%)

- ・ Gunosy Ads : 合計ではYoY横ばいな中でも、**グノシーはYoYで7.4%の増収**を達成
- ・ ADNW : 時事要因により好調だった前Q比減収ながらもYoY増収達成
- ・ ゲームエイト : 四半期売上高が**過去最高**、営業利益も**過去最高水準**

当期業績予想

新型コロナウイルスと広告ガイドライン刷新等の影響

- ・ 上記を踏まえ、**売上高の通期予想を下方修正** (従来連結予想170.5億円→新連結予想140.0億円)
- ・ 広告宣伝費を含む徹底的なコスト削減により達成を見込むため、**連結の営業利益以下は従来予想を据え置く**

事業環境への対応

直近の事業環境の不透明性を踏まえ、**2021年5月期目標についても見直しが必要**と判断
広告主数増加、**メディア・広告以外の収益源の獲得**、及び**徹底的なコスト削減**による収益性の強化や、**財務基盤の強化**など、不透明な事業環境への対応を計画

2020年5月期 第3四半期連結業績

Gunosy

- ・ 事業環境の不確実性が増す中でも、四半期ベースでYonY増収・営業増益を達成。
- ・ 広告単価回復に注力した**グノシーの売上**がYonYで**7.4%増収**。

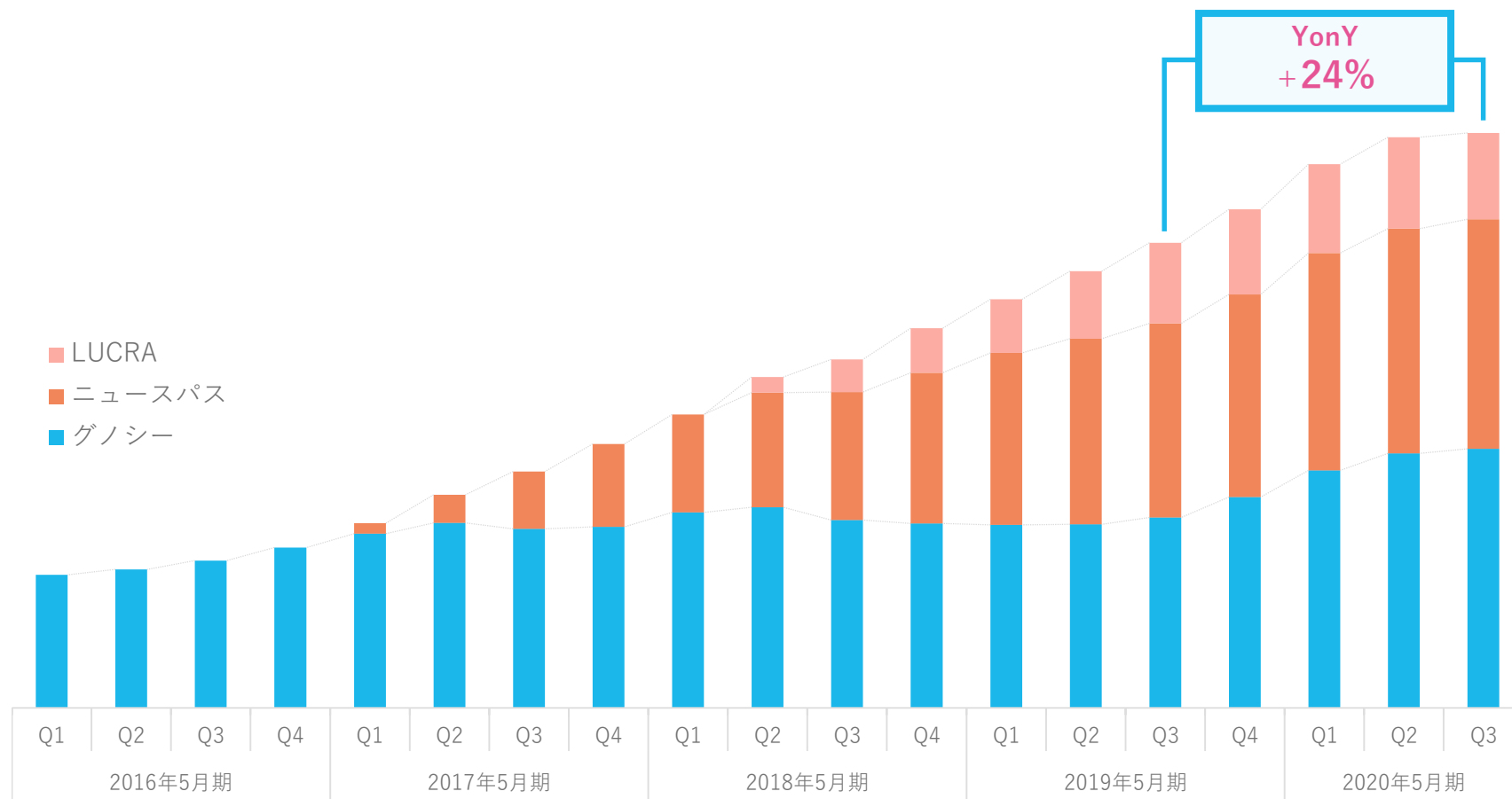
(百万円)

	四半期			累計		
	2019年5月期 Q3	2020年5月期 Q3	YonY	2019年5月期 Q3	2020年5月期 Q3	YonY
売上高	3,640	3,705	101.8%	11,182	11,291	101.0%
営業利益	331	343	103.5%	1,856	500	27.0%
営業利益率	9.1%	9.3%	-	16.6%	4.4%	-
経常利益	322	352	109.3%	1,843	484	26.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	200	91*	45.8%	1,717	219*	12.8%

*連結子会社である株式会社digwell（旧：株式会社Kumar）の株式取得時に想定していた超過収益力が見込めなくなったことから、当Q3においてのれんの未償却残高125百万円及び関連する無形固定資産2百万円を減損損失として計上。

アクティブユーザー数(MAU) ^{*1}

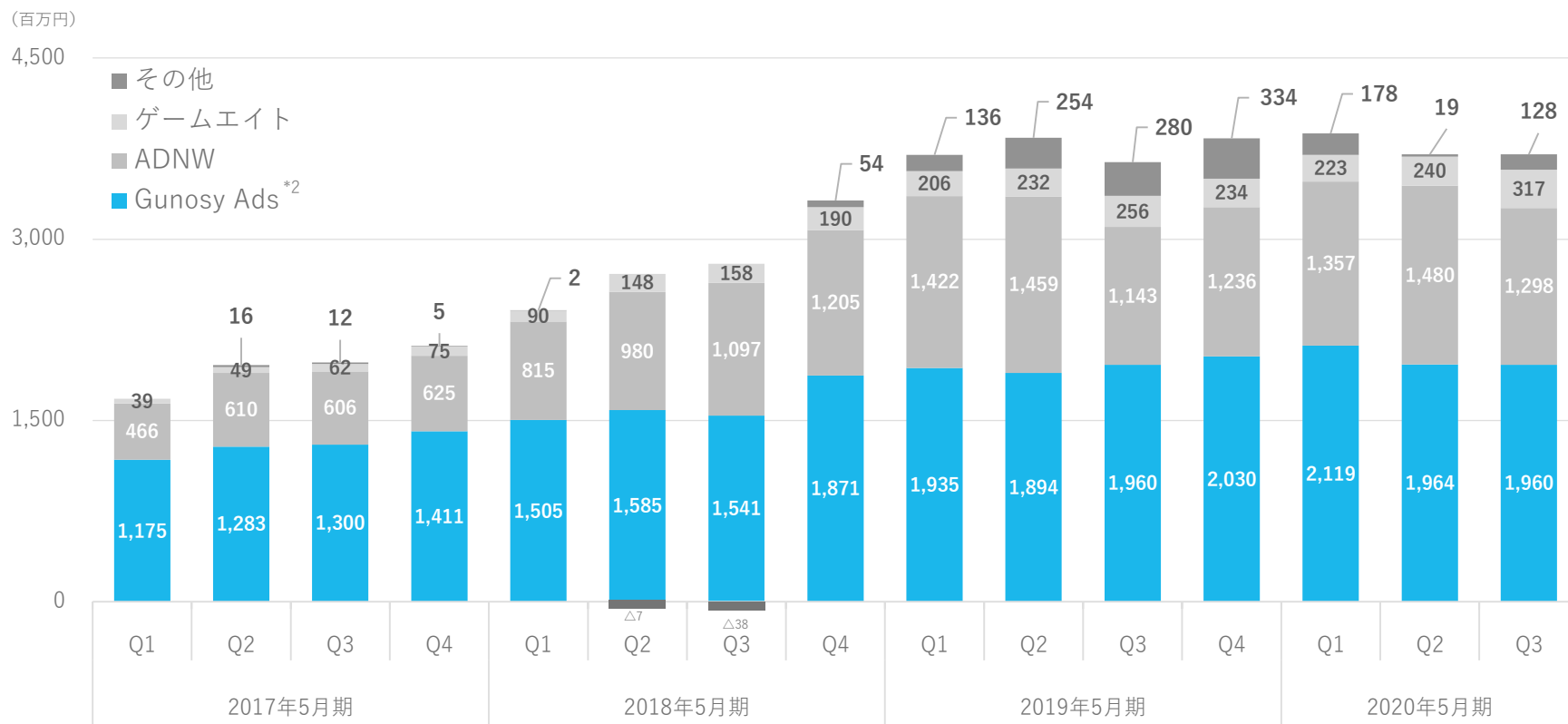
- MAU全体はYonYで**24%増加**。
- QonQはQ3で広告宣伝への**投資を抑制した影響**から微増にとどまる。



*1 「グノシー」、「ニュースパス」、「LUCRA」のMAU (Monthly Active User) の各四半期平均

売上高構成 ^{*1}

- Gunosy AdsはYonY横ばい。（グノシーは広告主数の増加によりQonQ好調だが、ニュースパス、LUCRAの広告主数増加が課題）
- ADNWはYonY増収。QonQはQ2の時事要因が落ち着いたこともあり減収。
- 大型タイトルのリリースによるゲーム攻略WikiのPV好調により、
ゲームエイトは過去最高の四半期売上高を達成。

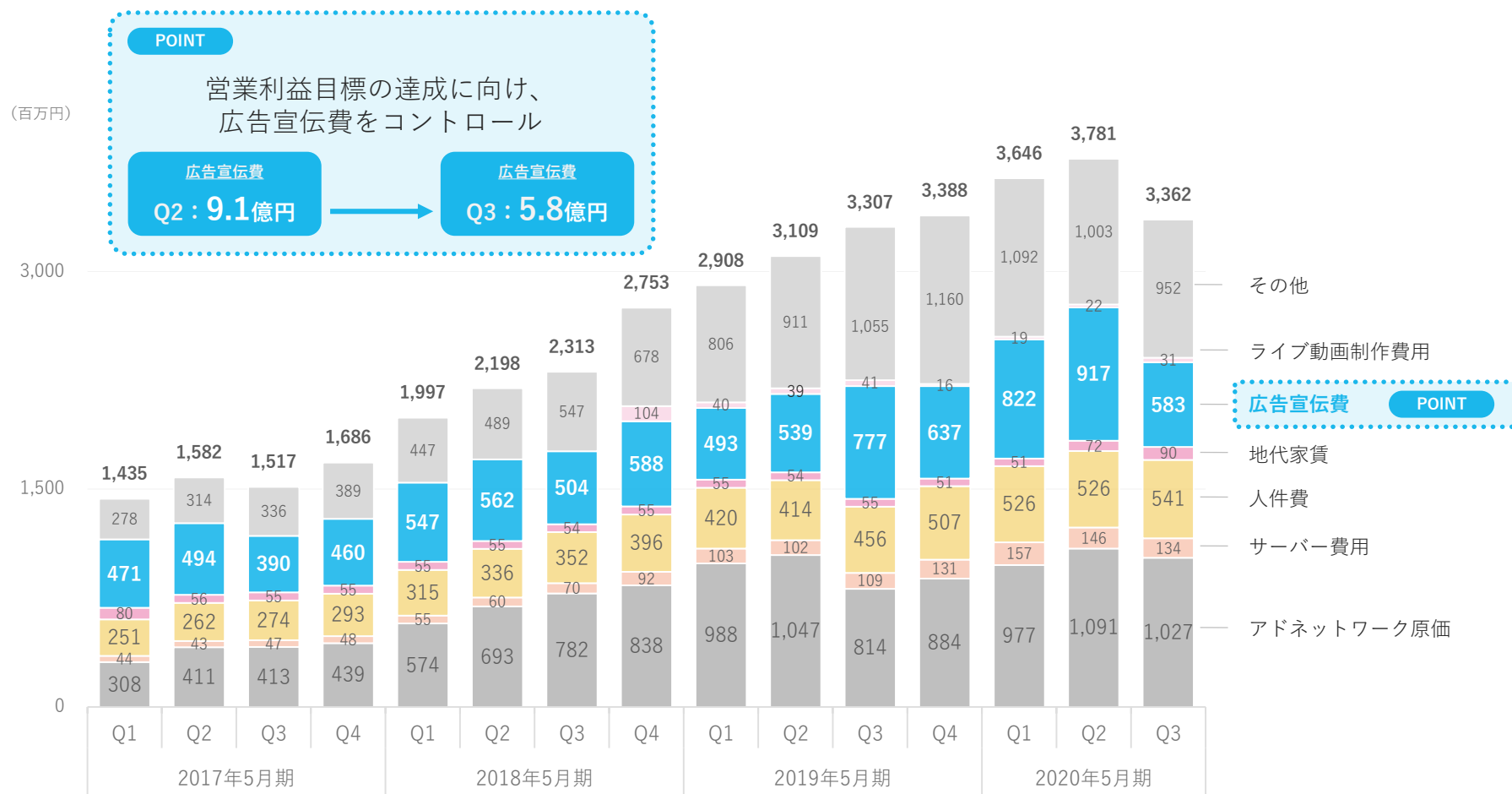


*1 「Gunosy Ads」、「ADNW」、「ゲームエイト」は単体での数値。内部取引高調整は「その他」に含む

*2 Gunosy Adsは「グノシー」、「ニュースパス」および「LUCRA」の合計

コスト構造の推移

通期営業利益目標の達成に向けて、**Q3は広告宣伝費をコントロール**。直近の事業環境等を踏まえ、収益性向上に向けた余剰コストの削減を強化。具体例として、**サーバー費用を改善**。



2

FY2020 Outlook

2020年5月期 業績予想

2020年5月期 業績予想（連結）

- 新型コロナウイルスの影響による足元の市況の悪化および広告ガイドラインの刷新と審査体制の強化の結果、広告主数の減少により短期的な売上高にネガティブな影響を見込むが、**広告宣伝費を含めた徹底的なコストの削減を実施しており、通期の営業利益目標は据え置く。**
- 一方で、新型コロナウイルスの影響については日々状況が変化しているため、さらなる業績予想修正の必要が生じた場合には速やかに開示する。

(百万円)

	2020年5月期 Q3累計	通期業績予想(連結)			
		2020年5月期 通期業績予想 (従来)	増減高	2020年5月期 通期業績予想 (新予想)	増減率
売上高	11,291	17,054	△3,054	14,000	△17.9%
営業利益	500	1,000	-	1,000	-
営業利益率	4.4%	5.9%	-	7.1%	-
経常利益	484	960	-	960	-
親会社株主に帰属 する当期純利益	219	565	-	565	-

修正部分

2020年5月期 業績予想 (単体)

- 連結業績予想の修正と同様に、**単体の売上高予想についても下方修正**。
- 経常利益については、Q4にて広告宣伝費、業務委託費などの大幅なコスト削減を計画していることから、当初予想を上回る着地を見込む。当期純利益については、保有する有価証券等の当期末の評価が確定していない状況を踏まえ、前回発表予想を据え置く。
- 連結業績予想と同様に、新型コロナウイルスの影響については日々状況が変化しているため、さらなる業績予想修正の必要が生じた場合には速やかに開示する。

(百万円)

	2020年5月期 Q3累計	通期業績予想(単体)			
		2020年5月期 通期業績予想 (従来)	増減高	2020年5月期 通期業績予想 (新予想)	増減率
売上高	10,245	14,314	△1,814	12,500	△12.7%
経常利益	446	632	187	820	29.6%
当期純利益	347	436	-	436	-

修正部分

広告ガイドラインの刷新

中長期での成長持続のために、
広告ガイドラインの刷新(2020年4月
10日公表)と審査体制の強化を実施

取り組みの背景

- 不正広告撲滅に向けた一層健全なメディア及びアドネットワークの構築
- インターネット広告の透明性と信頼性の向上
- 短期的な売上影響は避けられないが、信頼度の高いメディアに広告出稿する広告主の拡大により、中長期的な成長を目指す



新型コロナウイルスへの対応

社員、お客様、パートナー様の
感染リスク軽減と安全確保を
第一とした対応を実施

取り組んでいる施策

- 2020年3月26日より原則在宅勤務(リモートワーク)を通達
→あわせて、生産性のモニタリング体制を強化。長期化した場合でも大きな支障なく業務継続可能な体制を構築
- 出社する全社員に対し、アルコール消毒、出社前の体調チェック、体温チェック等の義務づけ
- 国内外の出張や渡航を原則禁止
- Web会議、電話会議利用の推進

事業環境の不透明性を考慮し、**収益性の強化と財務基盤強化に着手**。

収益性の強化

徹底的な**コスト削減**を実施

通期営業利益達成に向けて、短期的にコスト削減を強化。
2020年5月期Q4において、広告宣伝費、業務委託費などの大幅な削減を見込む。
中長期的な観点からは、全社的にあらゆる費用項目における削減・再配分を推進。

財務基盤強化

主要各行との間で **コミットメントライン設定**を協議中

想定しない事業環境の悪化と長期化に備えるため、既存の手元現預金とあわせ、
当社グループの2年以上の経常運転資金を確保する計画。

3

Policy for FY2021

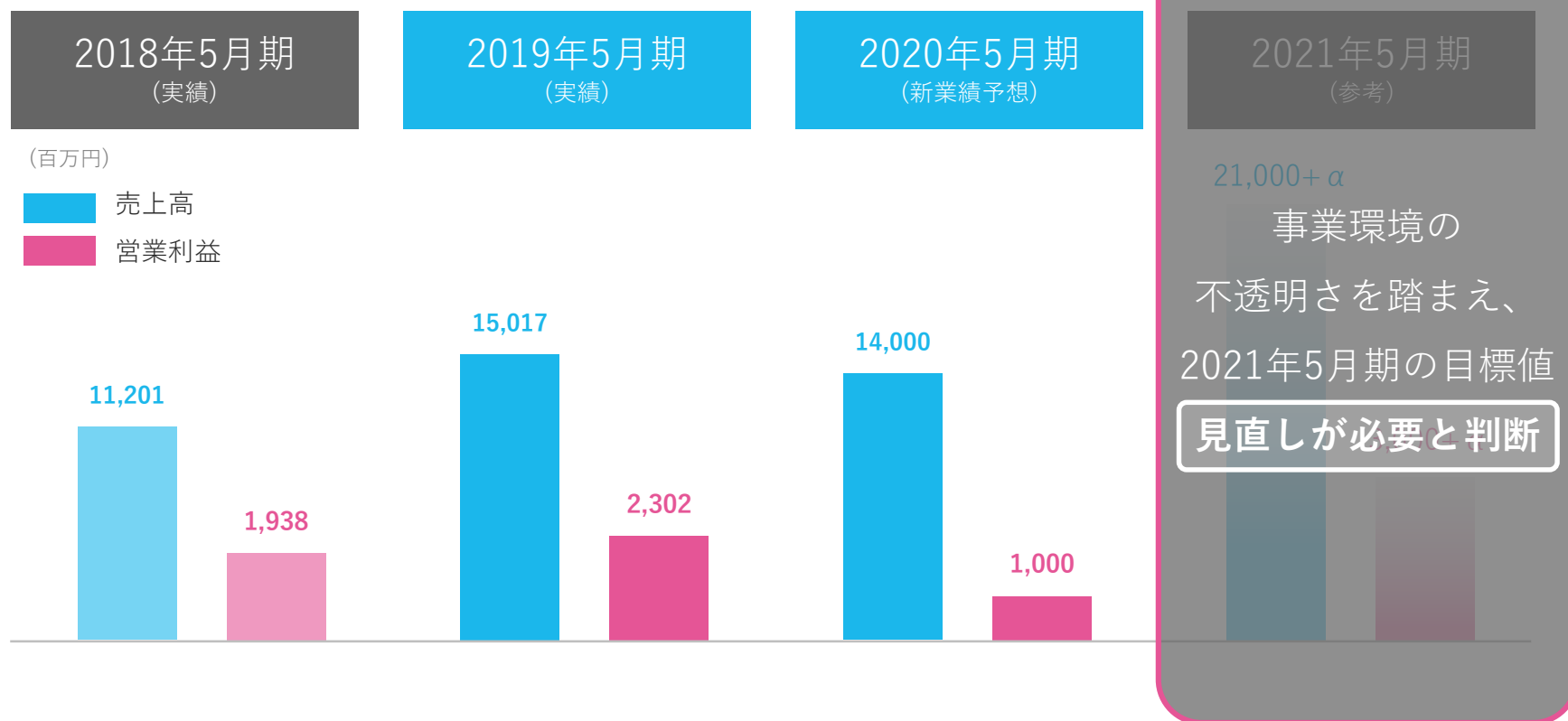
2021年5月期の方針について

2021年5月期業績について

来期について、直近の事業環境の不透明さを踏まえ、

連結売上高210億円+ α 、連結営業利益30億円+ α という目標については見直しが必要と判断。

修正後の事業計画が確定次第、改めて開示を実施する。



現在は事業環境の精査を行っている段階であり、具体的な業績目標は未確定ながら、徹底的なコスト削減および広告宣伝費の柔軟なコントロールの実施により、**営業利益ベースでは2020年5月期の通期業績予想を上回る着地を現時点では想定。**

取り組み①

売上高

- **広告主数の増加**
- **メディア・広告以外の収益源の開拓**

取り組み②

収益性向上

- **あらゆる費用項目の見直しを通じたコスト削減**
(Ex. 通信費、業務委託費等)

取り組み③

広告宣伝費

- **投資基準の厳格化**
(不透明な事業環境下でも、投資対効果が確実と見込めるユーザー獲得に絞って投資)

広告主数の増加に向けた取り組み

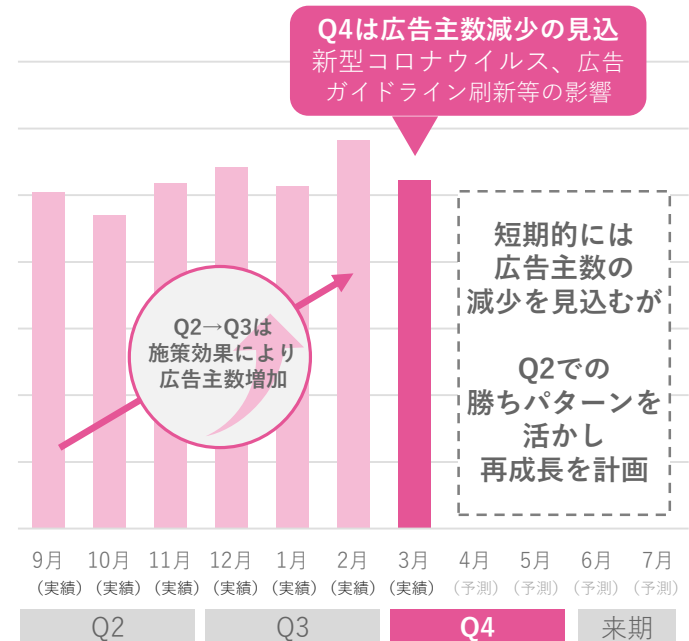
Q3はグノシーの広告主数が増加トレンドに転換。健食ジャンルの構成比(金額ベース)がQonQで△5.7%低下し、アプリ・金融・人材領域が増加。広告主の多様化にも成功。今後は**信頼度の高いメディアに出稿を望む広告主や、現市場環境に影響を受けにくい広告主の獲得を狙い**、再成長を計画。

3つの取り組み



グノシーの稼働広告主数*の推移

信頼度の高いメディアに出稿する広告主、「VOD、エンタメ、コマース」など現市場環境に影響を受けにくい広告主に注力



*「グノシー」における日次の稼働広告主数の各月平均数値

メディア・広告領域以外の収益源の開拓

直近での売上・利益貢献はまだ始まっていないながら、**Gunosy Tech Labにおける保有技術の収益化は着実に進捗**。2021年5月期から、具体的な業績貢献を計画する。

事業領域の拡大

Gunosyのコア技術：機械学習を用いたコンテンツ推薦およびコンテンツ評価の自動化・最適化

メディア事業

広告事業

Gunosy Tech Lab (GTL)

投資事業

安定的な収益を生み出す当社の**コア事業**

これからの収益の柱を目指す**新規事業**

グノシー

自社メディア広告

ニュースパス

インフィードADNW

LUCRA

動画ADNW

ゲームエイト

成果報酬型広告

オトクル

アプリADNW

協業/ツール提供での
収益獲得モデルの構築

協業モデル
・ KDDI
・ 博報堂
D Y M P
・ 東芝データ

ツール提供
・ スポニチ

成長著しい海外市場への投資
(現在はインド中心)

国内におけるテクノロジーによる
新市場創造への投資

プロダクト数・事業の進捗

GTL設立以来、様々な大手企業様に対し研究成果を提供。Q3においては、新たに**株スポーツニッポン新聞社様**に当社技術提供を開始。**東芝データ株様**に対しても当社技術提供に向けて協議中。

大手企業様との連携が着実に進捗

GTLが技術提供・連携しているパートナー企業



KDDI株式会社



Hakuhodo DY
media partners

株式会社博報堂DY
メディアパートナーズ



株式会社スポーツニッポン新聞社

New



東芝データ株式会社

New




Tech Lab

グノシー、ニュースパス、LUCRA、
ADNWなどの運営で培った
当社技術の提供・連携を実施。



協業による事業開発、自社技術のSaaSモデルでの提供など、
メディア・広告領域以外の収益獲得を目指す

広告市場のDX推進の一環として、テレビCM効果の可視化検討を(株)博報堂 D Y M P 様と開始。

マクロ環境の悪化に伴い、**テレビCMの広告効果明確化が求められる中で、広告主によるテレビCMの効果改善をサポート**し、テレビCM出稿のコスト対効果を向上させるプロダクトを検討中。

「テレビCM効果の可視化」コンセプト

広告代理店の目線

クリエイティブ・アイデア
・リレーション

広告主の目線

100億円超の広告出稿で
培った運用ノウハウ



テレビCM領域のDX推進

プロダクト化

テレビCMの効果を可視化し、定量的にCM出稿のプランニングを行える**ツールを開発**

提供サービスの概要

■ビジネスモデル図解



POINT

数値検証に基づく
科学的アプローチで
テレビCM成功をサポート



Business Overview by Division

各事業の概況

メディア事業

P23 ~ P26

- 新型コロナウイルスおよび広告ガイドライン刷新・審査体制の強化の影響により、Q4は各メディアとも一時的に**広告主数が大きく減少**し、あわせて**短期的な売上減**を見込む。
- Q3は広告宣伝費への投資を抑制するなかでも、「**グノシー**」「**ニュースパス**」の**MAUは堅調に推移**。Q4は広告宣伝費の大幅削減を計画し、各メディアともMAUは成長鈍化・減少を見込むが、**徹底的なコスト削減による収益性の強化**を図る。
- ゲームエイトは大型タイトルのPV獲得好調を受け、**過去最高水準の四半期業績を達成**。Smarpriseとのシナジー創出、海外展開に向けた、組織体制への投資を継続。

広告事業

P27 ~ P28

- ADNWは、広告単価(CPM)は低下傾向にあるも、広告在庫(imp数)は高水準をキープし着地。一方で、足元では**新型コロナウイルスの影響および広告ガイドラインの刷新・審査体制の強化**により、**一時的に大きな収益減少を見込むが、中長期的には健全化への施策取組により再成長を目指す**。
- digwell, VIDPOOLは引き続き、**中長期的な目線での業績回復施策**を検討中。

その他

P28

- Grill：新商品「**グッテレ**」をローンチ。



Q3は広告主の獲得が好調であり、QonQ・YonY共に増収を達成。

1日のニュースまとめ動画、トレンド超予測など**オリジナルのニュース・エンタメコンテンツ**を強化。
引き続き、グノシー限定クーポンの配信により、**独自のオトクな体験を提供**。

1 1日のニュースまとめ動画

1/20 週末話題のニュースBEST4

- ① ヘンリー王子夫妻 王族の称号返上へ
- ② 最後の「センター試験」を実施
- ③ 「チバニアン(千葉時代)」正式決定
- ④ 滝クリ出産、小泉環境相が立ち会い

話題のニュース

子会社Grillとの協働で、オリジナル動画の作成を実施。
1日のニュースを1分でわかりやすくまとめる。

2 オリジナルコンテンツの配信開始



「グノシー」ユーザーにアンケートを取った結果から今後のトレンドを予測する番組「～3,000万人がガチランキング!～トレンド超予測」を毎週月曜日の昼12時から配信。

3 プレゼントキャンペーン実施



チーズ肉まんキャンペーン
2020年1月24日～2月2日



手巻きおにぎりキャンペーン
2020年2月4日～2月13日



2020年5月期Q3に**1,200万ダウンロード**を突破。KDDI社と共同で**au WALLETポイントプレゼントキャンペーンを実施**し、クーポンタブの利用者増に成功。

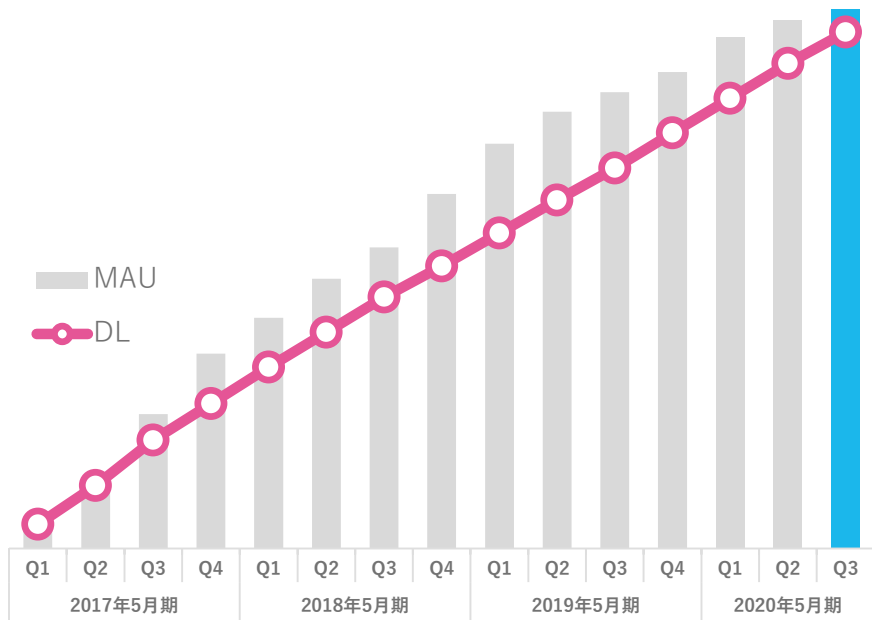
ユーザーKPIについては堅調に推移した一方、広告主の獲得に課題が残り、QonQでは減収。

MAU・DL数の推移

ポイントプレゼントキャンペーンの実施

MAU ○ 増加

広告主数 △ 改善中



クーポンタブの
利用者
倍増

クーポンリワードキャンペーン
クーポンタブを見てポイントが貰えるキャンペーンを開始。

引き続き収益性向上に取り組んでいるが、依然として課題が残る状況であるため、**Q3も引き続きユーザー獲得投資の抑制を継続**。Q3はMAU減少だが、**十分な収益性向上が実現されるまでは、引き続きユーザー獲得投資を抑制**する方針。

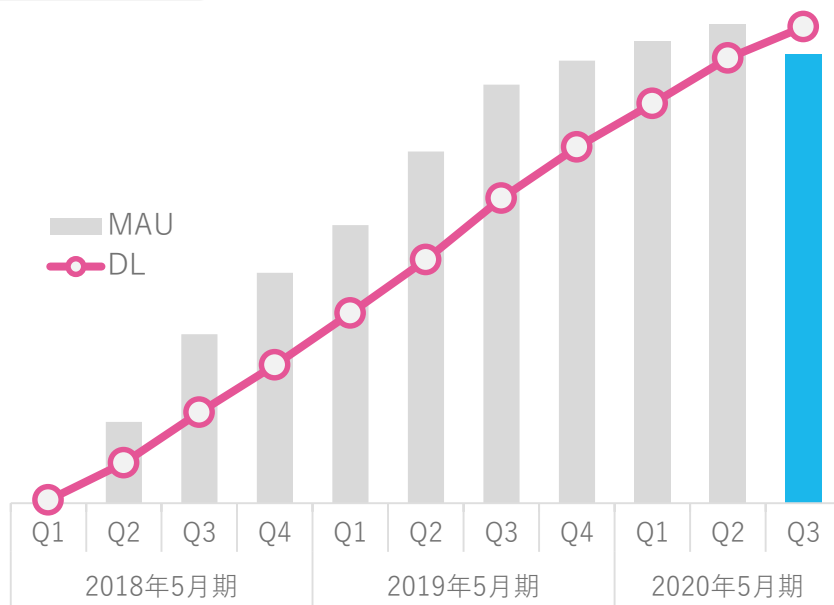
MAU・DL数の推移

MAU

X 減少

広告主数

△ 改善中



収益性向上に向けた取り組み

1

リテンションレート改善
(ex. プレゼントキャンペーン実施)

2

広告配信ロジックの改善
(広告配信の最適化検討)



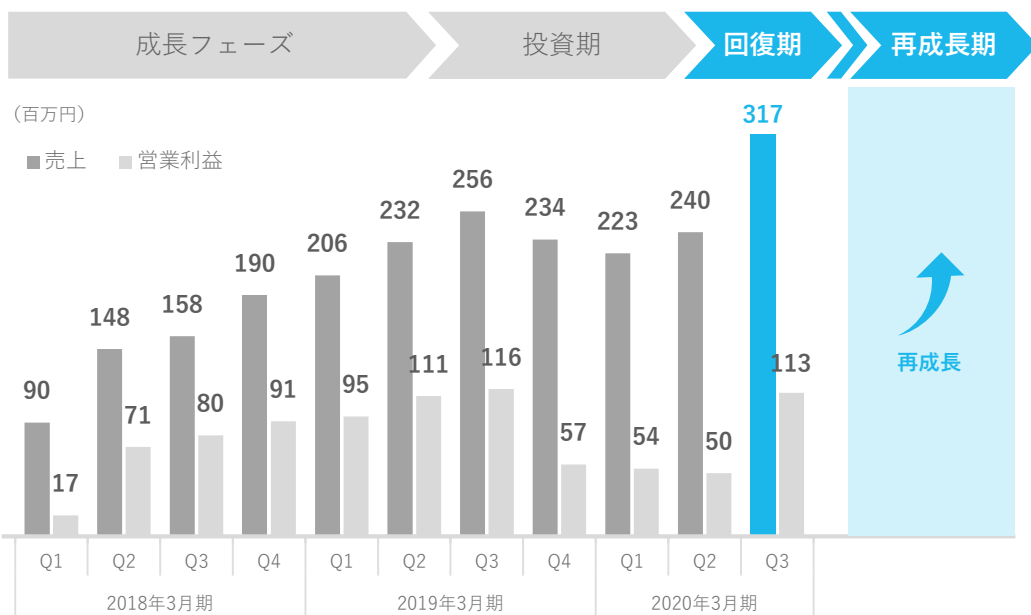
収益性向上の実現後、
ユーザー獲得投資を検討



Q3は過去最高の四半期売上高を達成、営業利益も過去最高水準。新型コロナウイルス下の事業環境においては、広告単価などに不確定要素もあるが、直近のPVについては好調に推移。

業績推移*

	2020年3月期Q3	QonQ
売上高	317 百万円	132%
営業利益	113 百万円	225%



* 単体決算数値 (連結調整前)

トピック

大型タイトルのPV好調

Q4も大型タイトルのリリースを控え、好調維持の計画

人材への積極投資

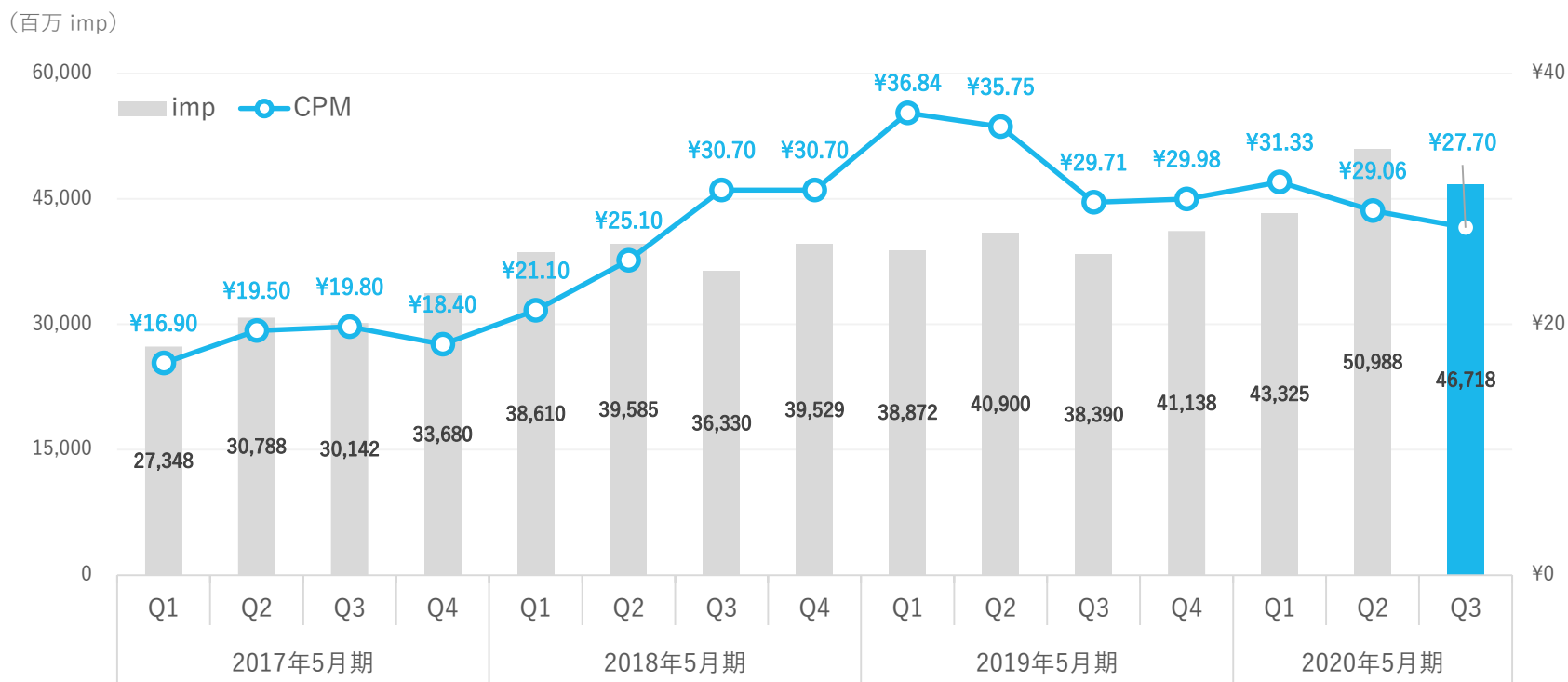
更なる成長を実現するために、人材への積極投資を実施

Post M&A・海外展開の強化

Smarpriseとのシナジー実現・英文サイトの本格展開に向けた海外組織体制への投資強化

Q3においては広告単価(CPM)は低下傾向にあるも、広告在庫(imp数)は高水準をキープし着地。
 足元では新型コロナウイルスの影響および広告ガイドラインの刷新・審査体制の強化により、
 一時的に大きな収益減少を見込むが、中長期的には健全化への施策取組により再成長を目指す。

imp数・CPMの推移



* CPM : Cost Per Mille。広告1,000回表示あたりの単価



アプリ向け広告事業に注力

成果報酬型広告サービス



動画アドネットワークの販売・
メディアレップ事業に注力

動画アドネットワークサービス



動画広告配信サービス
「グッテレ」をローンチ

マーケティングリサーチ
動画マーケティング



2019年12月に
連結子会社化

メディア事業
広告代理事業
エンターテインメント事業



投資先のすむたす社が
約5億円の資金調達を実施

(2020年2月4日)

(その他の既存投資先も足元の市況の
変化に対して大きな悪影響はなし)

投資事業

5

APPENDIX

参考資料：（株）Gunosyの概要

基礎情報

- ・ 会社名 株式会社Gunosy
- ・ 代表者 竹谷 祐哉
- ・ 創業 2012年11月14日
- ・ 決算期 5月
- ・ 資本金 4,077百万円（2020年2月末現在）
- ・ 証券コード 6047（東証一部）
- ・ 監査法人 EY新日本有限責任監査法人
- ・ 従業員数 240名
（2020年2月末現在 連結ベース）
- ・ 所在地 東京都港区赤坂1-12-32
アーク森ビル
- ・ 事業内容 情報キュレーションサービス
その他メディアの開発及び運営
- ・ 役員 : 代表取締役CEO 竹谷 祐哉
- : 取締役COO 長島 徹弥
- : 取締役CFO 間庭 裕喜
- : 取締役CDO 大曾根 圭輔
- : 取締役 木村 新司
- : 取締役（社外） 神山 隆
- : 取締役（社外） 冨塚 優
- : 取締役（社外） 眞下 弘和
- : 監査役 石橋 雅和
- : 監査役（社外） 清水 健次
- : 監査役（社外） 柏木 登

本資料に含まれている将来の見通しに関する記述は、本資料作成時点において入手可能な情報を基にした判断及び仮定に基づいて作成されたものであり、その正確性を保証するものではありません。また、本資料には独立した公認会計士または監査法人による監査を受けていない財務数値が含まれています。

実際の業績は、これらの判断及び仮定に含まれる様々な不確定要素、リスク要因の変更や経済環境の変動などにより、見通しと大きく異なる可能性がありますことをご了承ください。

Gunosy

情報を世界中の人に最適に届ける